主從心得草五編

上

ロ 9
1540
9

門口七9
1540
9

人と生まれて人の法をもつぎまつぶ人ふあらぬ。是ふよりて
五倫の道をもるべし。五倫の中でも男女ともるふへ。君臣のたゝ
是ふ五義万別ありて。一朝一夕ふもるべがたし。家業ふひまあき
者ハ。拙著従心得草十巻をよりて。其ひらきをもるべし

平がな
繪入

主従心得草五編 上下

東都下谷金杉
壽福軒述

弘化四未歳六月

主従心得草五編上目録

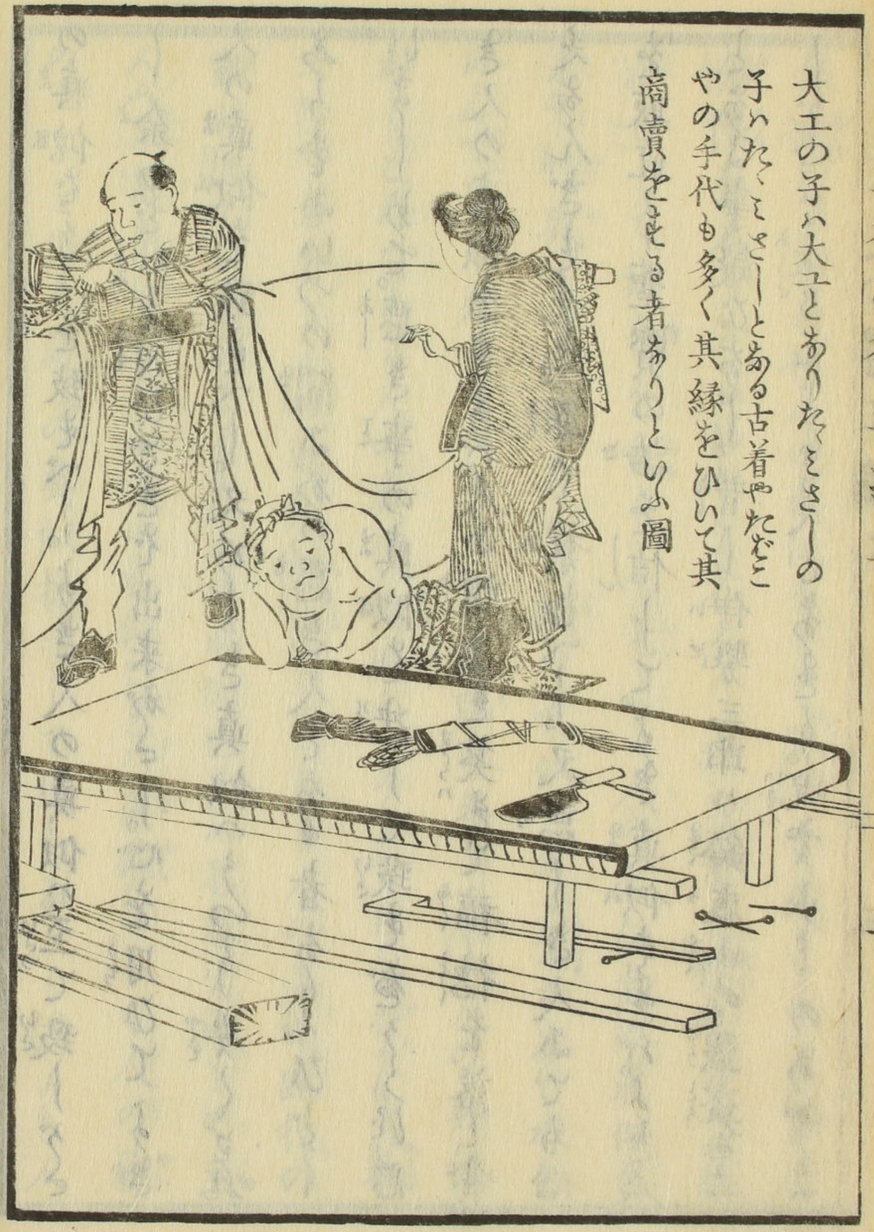
一 よき事の真似をもて悪敷事の真似ハもべらぬと云事
一 大工の子ハ大工とあり。古着屋の手代ハ古着屋とある事 一四
一 一切の人よき人の真似をもて。よき人ふあまとりふ事 六丁
一 楚の荘王夜御酒宴の時美人の袖を引し人の事 十一丁
一 新田義貞求塚ふ於て働の事並高家忠死の事 十三丁
一 楚の項羽不仁ふもて。七十余万の軍兵を失ふ事 十五丁
一 主家の物を掠め取ハ家尻切巾着切よりも大罪の事 十八丁
一 人をつゝく憎む者ハ我身を切刀を研と心得る事 九三丁
一 光秀信長公ふ。諫言をもて頭を打る事 九四丁

一 上ハ御師匠下ハ弟子御手本次第ふてよくも悪くもある事 九八丁
一 上ふ不儀の行ひある時ハ下ふ倭奸邪智の悪人ある事
一 孟子齊の宣王ふ臣下の使ひゆうを説ふ事 三十丁
一 家来の忠不忠ハ主人の取扱ひゆうの精粗ふよる事 三十二丁
一 忠信義士も存ドよう況ん言ふ事アリ 三十三丁
一 晋の豫讓智伯の為ふ敵の衣をさを事 三十五丁
一 臣下ふ色々ゆうり師匠とまるゆうり朋友とまる事アリ 三十六丁
一 ゆうり倹約過る時ハ吝嗇とあり乱を本たる事 四十丁
一 吉野のさくら越後の大雪の事 四十一丁

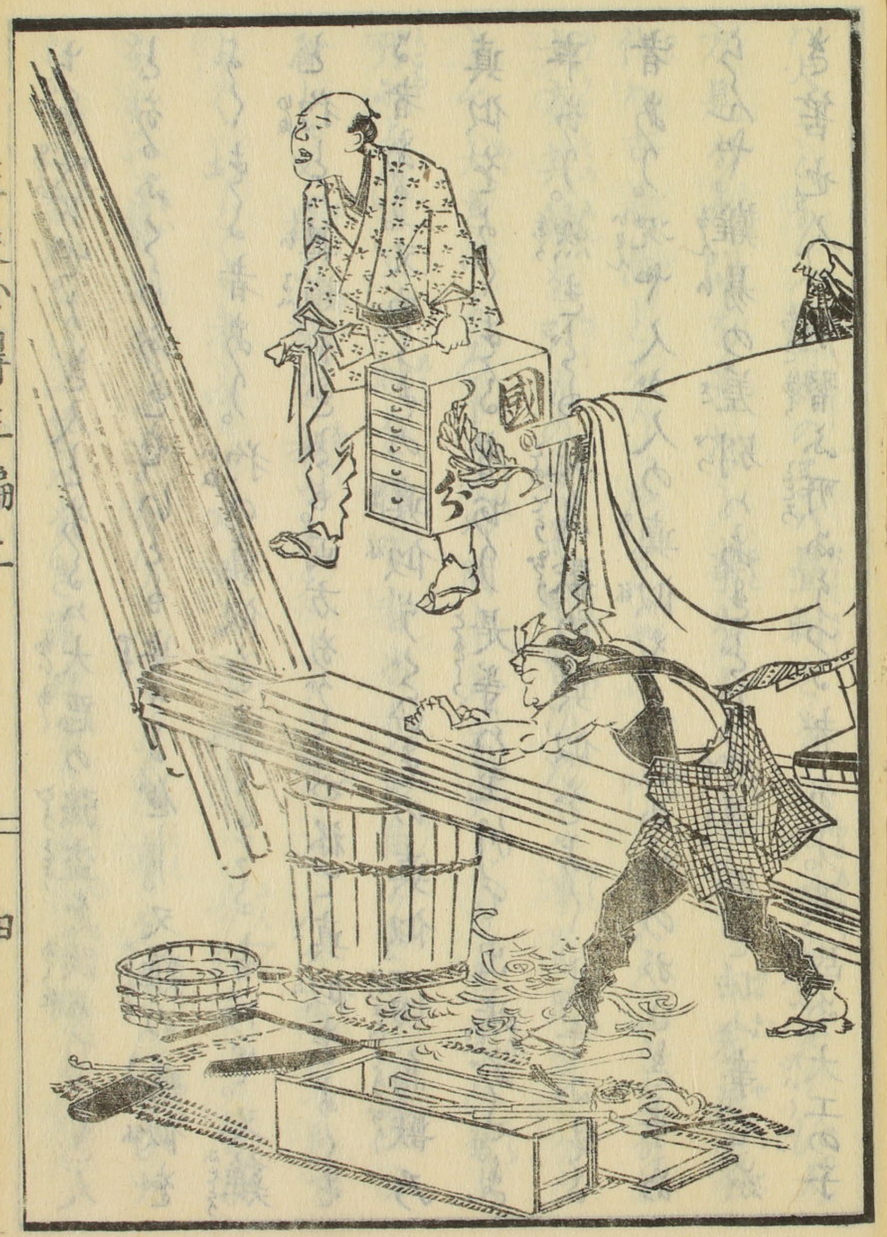
扨眞似の仕方ハ誰ふても人の長ずたるふき所を取て眞似を致をべし不得手ある悪き所をを学ぶ為ふくるを元を人ハ何事も一人ふふき事ばかり無備へたる人ハふき者あり又悪しきを人ふても得ふる事ハ一ツ二ツゆうる者あり是を人ふ取てゆうときハ士ひあらを義理の正ふき人ふ内心ハ闇ふて表ハやもらかある人ふ又我職分をよく勤めふ人ふ一藝ふ達したる人ふ是等ふ類数多あるべし其ふき事を一ツありとも眞似をしふ我物ふを為し又是ふ打ふへして學ぶ為ふらざる事を

貧乏ある者の福人の真似をして。弥〻貧乏とあるハ身の分限をわらざるなわう者あり。病身者が達者の人の為ゑ孫をして。病氣を重くし。老〻る人の若ひ者の真似をして怪我なゆまちもるハ。鵜の真似をする爲ゑ水をのんで。早く死る人あり。又義理をわらざる人の真似かゝ〻こだてもる人の真似。権威ふつのりて自分ぞうり奉公だてをもる人の真似。智恵立をもる人のまゑ孫。跡役の勤めにくいをあまとぬ人の真似。已をハ不奉公ふして主人へ不足をいふ不忠者の真似。已をハ無藝ふして人の藝の上手を憎ゝ誹人の真似抔。決して致を色〻ゝ〻よき人

の真似ぞうを致をべし。よき人の真似ハ至て致しゞ〻ゝし。余りど心を用ひざをを出来がゝし。心を用ひてよき人の真似を致をべし。又わしき真似ハうつり安く。されわゝまゝふいつの間ふあゝ悪き人とある者あり。ひどくいまゝしめて。悪き事の真似を決して致をゑゝ〻。悪き人の真似をもをゞ。人ふ憎まを笑をて福徳を落し貧乏ゑんぎもる也。深く禁むべし。又悪しき人ふても心を取直し聖賢の語を信じて。よき真似ともゞ。よき人とある事疑ひあし。昔し伊勢三郎ハ鈴鹿山の強盗ありしゞ。心を改めてよき人とあををり。況や少しのあやま



大工の子い大工とありたゝさしーの子いたゝさしーとある古着やたゞこやの手代も多く其縁をひいて其商賣をとる者ありとゝいふ圖



ちを改めて。よき人とあるハ大悪の強盗を改めて。よき人とあるふくらぶもだ。いとも安うる爲し。又雞の真似をよくもする者あり。狗の真似をよくもする者あり。又雞と狗とハ異類あもこども。両方あぐらめ祢て真似をよくもする者あり。又あらもの真似。うぐひもの真似。一切鳥獣乃真似をよくもする者あり。是等ハ至りて出来がたき事あり。然もこども此鳥獣の真似をよく上手ふもる者あり。況や人が人の真似をもるふ何のかたき事あらんや。難易の差別ハあもこども。出来ぬとふ事をふき筈也。人ハ則習ふ所ゆうつる者あり。夫故ふ大工の子ハ大工とあり。畳刺の子ハ畳刺とある。何職ふもぎ〳〵だ。大方見あも聞あもたる事をもる者あも。古着屋の手代ハ古着屋とあり。たゞとやの手代ハたゞとやとある。大方其縁を引りの也是則習ひたく事を。用ゆるうらして大きふよろし。元ハ同ド人あもこども。其学ひ習ふ所ゆうりて其妙を得る者あり。兎角よき事を学ぶ爲し。又拙ふ藝を教ゆもこどよく覚へて。人の謳ふつもて よくあどる者あり。是外ふ子細あり。分別あり。習ひあもて藝をもる事あり。人もよき事を学び習ひたらば。出来ぬとふ筈ハあき道理あり。若出来ぬといえ

禽獣ゐなどもあらざる道けんや。夫き人ハ万物の霊天地人の三才とあらゝぶ者あり。才とハ寶あり天と地とありても人があけもてゞ其恵こを施し事あるべし。人があつて早魃ゐハ水を引て田畑を潤し大雨ゐハ川を堀て悪水を海へ落し米麥野菜菓物等ゐいれる迚人が仏抱して。天地の手傳をもてる故ゐ。五穀も成就もてるあり。天地がありても人があけもてゞ。五穀ハ勿論其外一切の万物も出来ざゝし。左もてゞ。天地斗りでも世界を恵こい施しがゝし。又人がありても天地の恵こがゐくてハ。一切万物ハ出来ざゝし。是ゐよりて天地人乃

三ツがそろ見ゐハ。物ハ成就ちがゝし。此故ゐ三才といふ。人間ハ世界第一の寶也。世界最上の寶であり為ゝよ人の真似さへ出来ぬとりふを禽獣ゐも劣るべし是を恥ざるハ人ならず

上くの智者善人ハ鬼もあを中以下の人ハ。誠の忠義孝行ハ出来ざゝし忠孝仁義礼の真似を為て暮もべし。ゐき事の真似もゝべ。夫相應ゐ福徳ハ来る者也生安心ゐ送る事疑ひあし。若盗賊あゝりの真似をせゞ忽ち打首獄門とある道し。是ハ申ス迚もない大悪事也。又不忠不孝博変打の真似を為ても。人ゐ憎

まを人の用ひもあ〳〵なのまを。取立る人もあり。然らぞ出世の道ふ川ふあ〳〵。是外の事ふあらぞ悪人の真似をまくるふよ川てあり。是故ふ侍いよき侍の真似をまて よき侍とあるべ〳〵。僧いよき僧の真似をしてよき僧とあるべ〳〵。医者儒者大工商人百姓までもよき人の真似をまて。よき人とあるべ〳〵。上くの智者善人い鬼もあまを。中以下の人くハ忠孝礼義等の真似をまて一生をのんびいよく暮をべ〳〵。是善人の仲間内也福徳を分相應ふ来て。一生安心ふ暮を事疑ひあ〳〵。智者この道理ある事をまつて。愚人共ハ忠孝仁義禮の真似をひたとせをと教へまふ為〳〵。大ひふ利益あ〳〵事也

○倭漢三才圖繪七十二末　織田信長公ハ。平相國清盛の後尾州織田信秀の男也。小字を吉法師といふ。

倜儻不羈ふまて。細僅をめくり見ぞ。幼少より弓馬を事として。将帥の量あり。永禄年中今川義元と合戦まて。義元の四万五千の兵を信長ハ三千の兵を以て。大ひふ克是ふよつて。勢ひ強大とあり　義昭公をさ〳〵さまて。浅井浅倉を亡ぼし。齋藤を殪し。三好を伐ち松永を殺し武田を亡ぼし内七臣従二位ふ叙せらるを。墨を安土の山上ふ築き勢ひ強大ある所ふ。天正十年六月二日

賊臣明智光秀が為に本能寺に於て。自殺せ。嫡子信忠も。二條の新殿に於て自殺せ。信長平生城を拔ときに士と與に是を拔き地を得る時に。將に封じ其功を與に賞罰明らかにして。号令嚴かなりこれ其起る所以なり然れども其將士の旧悪に於て水懐に忍き事なきもの。遂に功臣舊將を誅し。或に追逐おのも。光秀嘗て信長の命に背く事屢多ある故に。刀鋸の其身に至らん事を恐れて先達て謀叛を圖ること[illegible]亡する所以なり信長の英才雄略を以て[illegible]をあさむ。一統の叡業に逮ぶんも計りがたし國の興廢存亡に天命ありといへども。此難を羅ることに舊悪を思ふて。新功を捨たる故なり惜ひ哉とあり。信長公に舊悪を悪むたるに相違あり。太閤記三編一に。天正八年の秋。佐久間右衛門尉信盛。林佐渡守。安藤伊賀守。此三人に思ひよらぬ。遠流せらる。是舊悪によりてありと。信長の器量大ひにせまし。此時此三人を。一家一門といへども。訪ふ人なし唯秀吉ばかり黄金を送り拔きてこりさりける此三人に秀吉が出頭を憎む人あるを共。夫を機にうけぬ。訪ぶらひ勤とに。寛仁大度めでて天下の主と成ぬ。

宜べある哉

○和論語六ゐ源の頼康のいまゝ。あべての人一ツの悪叉を以て諸〳〵の善を捨る事あるゝ。一ツの非をもつて。累年の功を捨る事あるゝ。必ずよろしきゐ計ふべし〳〵と。一ツの悪事を以て累年の功を捨る時ハ。主人の無理あり。無理ハ堅〳〵致さるべ。然ども罪の軽重ゐもよる事ゐなゝ。一がいゐへいひがゝし。必ず中道の計らいあるべし。古語ゐいはく〳〵貴〳〵して。賤〳〵き我忘る者ハ。ゑさ〳〵うゝむ。古て亡び。古き恨こを思ふて新功を捨る者ハ。悪ありといへり。古きゆゑまちあるとて。新功を捨ゝたび〳〵あやまりたる者ハ功を立る事ありがゝし。又あゆまちなゝを。改むるゐ慢ある〳〵ある〳〵の聖語ゐも違ふべし。昔しのゆゑまちを。いつまでさ〳〵ちさむハ。無智ゐして大ひゐせまし。舊あゝを思ふて新功をもてるハ。いたりてよろし〳〵といふ事ハ。信長公を以てよゝ〳〵ある〳〵

○前編ゐもいふごとゝ。凡そ主君たる者ゐ。貴賤上下の品ハあるゝ。先召使ふ者ゐ對して。ゐるゝこをたゝ大体の科をもる〳〵万事ゐ付て堪忍せべし。万事ゐ付て堪忍せざゝ。何事も成就せる事ゐ〳〵若主君

の心短氣ゆへにて。召使ふ者ゆえにてなきべ。其家必ず和合せざる。和合せざる時は。國を持つ者も。國をたもつ。家をたもつ者は。家さもぎて。禍ひの基ひとある者あり。折角扶持をして人を養ひあげら。召使ふ者の為ゆ恨みを受るゆうゆ使ひあを事は。大ひある損ゆあらぢや。召使ふ者主人ゆ恨みあるもてぢ日頃の恩をもきて寃をあす者あり。又主人ゆ堪忍あさけある時は。年来の述懷を忘きて。我一命をも惜まぬ者ゆ。少しのなやまちあるを以て。大ひある忠孝を徒ゆあを事あるきとあり。主人たるものは十分ゆ堪

忍を致しゆさけをうけて使ふべし。堪忍も十分ゆ過ぎべ其功見へがたし。又中ゆも上たる者は心を用ひてつつゆ堪忍せぎべ。大きゆ事あり。無理も短氣も通るからして。もをたらぢゆ。無理をする事なり。無理も短氣も罰ゆあるゆ来るからして。ぢぢゆ居る。遂く来るゆ。罰ゆ大きくゆ。罰ゆ来る。下の短氣非道は直ち罰ゆ来るからして。大体ゆあとさぬりのあを。若短氣を起したら。身を捨て起をゆらして。何ゆうの仇をせんもそありゆたし。又上ゆら堪忍をのさし。慈悲を以て使ひなゆ隨分忠義

楚の莊王大座敷に於てよる市酒宴の圖

を尽し。御家の為めもあり。まさうの用めも立者也

○唐土楚の國の荘王ある時。諸臣を集め大座敷ゑ於て。御酒宴あり大勢おゑて。彼是ひま取て夜ゑ入たり。燭臺ゑろうそくを付御酒宴ある所ゑ。俄ゑ大風吹来り燈火皆きへたり。あゝある臣下其くらまぎゑゑ。上座りありける美人の袖を引たり。其美人其臣下をうらへて。冠むりの緒を切て荘王ゑ申し上けるゆうハ。誰ゝ為らぬ我袖を引ける故ゑ冠むりの緒を切置たり。そもやく火をともしてせんぎあるべしと申し上けゑ。荘王の仰ゑ臣下共り酒を進むる事ハ心をあぐさめ酔為めんが為

あり。酒ゑ多ふてハかゝる事もあるゑし火をともしてハ酒宴の興もさめて恥ゑ及ぶべし。火をともさぬさきゑ。座中の者共。皆冠むりの緒を切べしとて皆くゑ切せて。後ゑ火をともさせて。又もとの如くゑ酒盛をしてよろこびを尽さゝめてあへさまゝ。誠ゑ袖を引ける者ハ大難をのがゝ誰共為ぬゝして打過ける。其後隣國と大軍あり。荘王の陣まけいろゑあり。備へやぶれて。もてゑ荘王も御命ゆうく見へける所ゑ。一人の臣下。荘王の前ゑ立ふさがりあまたの敵を打取ふせぎ戦ひけゑ其ひまゑ荘王を

をるかの遠方へ引ぱりぞき。あらき命を助あり。ふ
ひける。軍ぱまりて荘王かの臣下ふのあひける
ハ今日ハなのゆうき所を。ふせき戦ひ敵を追あへせ
さ。ひるいあき働きあり。多くの臣下の中ふ。ぬきん
でく命を惜まぞ戦ひしハ大忠とりふべしとやめふ
へば。我こそ先年御酒宴の時。義人の袖を引て冠むを
の緒を切きし者也。其時の御恩忘ぱがさく。只今報
ど奉ると申しける。是主人の堪忍つよく寛仁大度
の斗らひありしふよりて也。一切の主君たちハ。此荘王
のやうふ家来を親こたきりのあり。我妾の袖をひき

たるふ。夫を少しもいうらぱ。咎めぱしこと臣下共り酒を
進むる事ハ。心をあぐさめ醉ぱめんゞ為あり酒ふ多ふ
てハ。あることもなるべし。火をともぱてハ酒宴の奥もさ
めて。耻ふも及ぶべし。火をともさぬさきふ。座中の者共
皆ふんむりの緒をきるべしとて皆ふきらせて。後
ふ火をともさせ又もとのごとくふ酒盛をぱて悦びを尽
さぱめてぞへさぱたりとハ誠ふ家来の者共を餌親こ
あふとりふべし一切の主人たる者ハゆうふ心得たき者也。
然ぱ共余りこたりある事ハ急度いまぱむべき筈ふれ
共此場ふ於てハ荘王の斗らひ大ひふよろし。君臣和合のふ

さる方あり。若短氣不仁の主君あるを忍ちいかりを起し。手打せん長のいとまを乞ゐ採とさるぎあふ
べし。夫めてハ。まさうの時の急難をもくふ臣下あ一
一切の主人達此儀を考へあへ

○是ハ唐土ぞうりの事ゐならぜ。我朝ゐも此例あり
大平記ゐいはく 楠正成討をけるぞ。新田足利の戰
ひハ今を限りと見へゐけ。足利ハ四万余騎を三手ゐ
はうち。義貞ゐ討てゐる。義貞朝臣ハ味方の軍勢をゐ
ゐのびさせんと。後陣ゐありて。めへ〳〵合せ〳〵戰をを
けるゐどゐ。義貞の乘をる馬ハ矢七筋まで立ける故

ゐ。ひざを折て倒をける義貞ハ。求め塚の上ゐのぼり。乘
がへの馬を待ゐへどゐ。味方ゐ是をゐる者ゐ一。歟是
を取とめて討取んとをそるゐ。義貞の勢ひゐ辟易して。
迫付者一人もゐし。唯十方より遠矢を以て射けるゐ。其
矢あめのごとし。義貞ハ二振の太刀を左右の手ゐ持て
切落さをける。其ありさま四天王の放ちゐへる矢を。速
疾鬼ゐ取るもゐ〳〵やと思ふぞうり也。小山田小太郎高
家ハ。そるうの山の上ゐり是を見て。諸鎧を合せてそ
来り已をゐ馬ゐ義貞をのぜ奈らせ。我身ハ徒立とゐつ
て。追くる歟をさせぎける。其ひまゐ義貞ハ。虎口の難

をのぶきたるかの遠方へ逃ゐふ。高家ハ数多の敵ゐ取こめらき。終ゐ討死ちうりける。衆ゐぬきん出て義貞ゐかりり討死せ〜事ハ。去年義貞西國の討手を羨つて。播州へ下着の時軍法ゐ田畑の物を一粒もり取べうらぢ。民家を追捕まることあゐまじいまゐちむ。然るゐ高家軍中の粮一粒もあうりけきぢ。止事を得ぢ青麥をり取馬ゐ負せて帰りける時。ぐん中の目付奉行是を見て。高家を誅せんとき。義貞是を聞て高家ゐ法を犯したるハ戦ひの為ゐ掟を忘きたるあるべ〜として。高家をゆるし。田の主ゐと小袖二重祢きるさき。高家ゐハ粮米十石をるさきたるゆ高家共仁心の計らひを感じて。終ゐ大将の情けの御恩を報ぜんと思ひて。討死を致したり。武将たるものの是を思ふべ〜とあり。是ゐよつて主君たる人ハ。堪忍と慈悲情けを以て。家来けんぞ〜を使ふべ〜。左様ゐせざきバ上下和合せぢして。大事の用ゐハ立ゲさ〜。若短氣無慈悲あきバ國家ハ治まらぢして。我身も共ゐ亡ぶとちるべ〜

○楚の項羽とりふ人ハ。力つよ〜きて。大木を挽移眼大ひゐ〜て光りあり。仰ひて空を見きバ飛鳥も落

けりかゝる猛き大将ゐて。七十余万の軍兵をもつさめへ。漢の高祖と戦ひあり〳〵ゐ。忠義手柄ある人ゐ。知行をつゐさんとて。朱印を取出しけを共。欲深く仁心あき人ゐて。知行をあさへんや。なさへざるゆと。朱印を押ゐ孫て。印つぶるを共。兎角慈悲情けあくもて。軍兵に知行をあさへざきを。軍兵共うとこ憎て。軍功をたげむ者ゐし。又張良韓信等の智者軍者。皆逃て漢の高祖ゐ従ひ終ゐ項羽を打まゐして。爲郷といふ所ゐて。討亡〳〵ける韓信張良ハ本項羽の家来あり唐土第一の智者軍者あり。ゐるゐ是を用ひをし〳〵ゐ歟

方の寶とゐ〳〵是ゐ打ゐをるとハ能く不仁不法の大将と見へたり。七十余万の軍兵を持ゐぐら天下を失ふとハ。あまり知恵ゐ〳〵とりふべし。主君ハ臣下の賞罰を正し〳〵く致し。堪忍慈悲情けを以て使ふべし。恩をかふむらざをば。忠義も尽し〳〵がさし。是臣下の欲心をゐらを自然の道理也。其功見へざをを骨身ゐをこてたらきがさし。是天心ゐり。又主君ハ其功ある人ゐ賞をなさふが役也恩を蒙むをば忠義を尽を事疑ひゐし。是又天理也主人ハ賞罰の役也依怙ひいきゐく真直ゐをべし。然をども

賞ハ重〳〵罰ハかろ〳〵もべし〳〵又家来ハ忠義一途ゐ御主人の為ぞうりを思ふて。我身の出世の事ハ思ふべうらもぞ。若出世をゝうべ猶〳〵主人の御為を思ひ。主家のもん昌を工夫をべし。然るゐ今ハ主家の大恩を受てよい役義とあり。立身出世をるゆゑ主人の威勢をかりて。諸人を苦ゑめ大悪をあゝ。又事ゐよゐゑバ主家の物をかゝめ。主家をくつがへさんとする不忠不義の悪人多し。少しも油断もべうらもぞ世界押あべてあやうの人多し。主人も大ひゐふこまりゐふ事也。御目鑑違ひとりふて世間で笑ふあらをて外聞もはゞ〻向目

も失ひゐふ。慈悲もあきけりも出来がさし。こまり入たる世の中也。主人の大恩を受あゞら。主家の物をかゝめ。主家を押たをさんとをるゑ極悪の人あり。大罪ゐ行ふ〻もあきたるべうらもぞ。是ハ不忠不義無智の家来どものよゝをる事也。忠信義士ハ決してあきことゐ。誠の忠信義士ハ。大恩を受る不どいゐゝ忠義を尽し。増〻主家を大切ゐをる者あり。是ゐよりて主君ハ臣下の忠不忠善悪をよゝ考へて。賞を行ふべし。善人悪人忠不忠をあらまぞをんぞ。大ひゐなやまる事あり。主人たる者ハ此儀をよゝ考へて。役義を申付べし。

新田義貞と足利の
軍勢とたたかいの圖

御目鏡違ひとゝいふハ大ひなる恥なり。ひらたくいへゞ無智の大馬鹿といふ事也。まさう左様ハも申さぬ故ハ。御目鏡違ひとゝいふ也。是ハ依て御目鏡違ひと大ひなる恥なるゝ。臣下の忠不忠。智不智をあらこて。役儀を申付ふべ〜又御家の取ちまり治不治経済ハもあるべ。大事の中の大事也深く考へ事

○武道初心集下ハ世間ハ俳徊する盗人と申スハ人の家尻を切り或ハ人の腰ハさげたる。巾着をきりそ。の外種〻の盗〻を致して渡世仕る儀。尤大非道なゝ。どハふ申スハ及ぶ候。然ども古人の言葉ハ

ハ。人と生て常の産あけ生た。常の心ゝとある儀ハ生ぶ。其身今日の渡世ハ差詰り。致し方なくいくらぬ心〻ら人の物をぬすてあり共。當分の飢寒をふせぐ〻ゝ。命も生ぬきがさし。若見付られて首を切られ〻共。是非ハ及ぶゞと覚悟を極め命を的ハかけて盗〻致すとあるハ不届あるゝも少しハ尤のゆうハ覚へハ。扨武士の奉公ハ。大身ハいふハ及ばゞ。たとへ小身なり共。既ゝ苗字を首ハあけ。腰ハ大小を申さゝ。一向の雑人とも申し難し。旬論奉公人とあるからハ。似合相當の恩禄をうハむり

罷在儀ハ候へども。常の産おゝとも申ゝ難し。然るに主人の御目鏡を以て。御勝手懸りの役儀あゝど仰付らるゝハ於ていハ。毛頭私欲の心なく一筋ハ上の御為ハあるやうに致し。正直正路ハ相つとめてとそ。武士の本意あるべきに。稍ともすれば役儀ハ付て私の非道をかまへ。手をかへ品をかへて。主人の物をかすめて。已れが内證へ取こむ分別ばかり仕り。後ハハ已れ一人ハてハ自由ならずとて。我預りの手代を始め。自分の家来共迄も盗こを致させ。共ハハ主人の物をうまく取我がふところへ入る故に。万民のそしり同役諸傍輩の思ひ〳〵を恥る心もなく。身上不相應なる普請を致し。道具あつめ。茶席あゝどもとゝらへ家内の人數も多く。もとと同身体傍輩よりハ十増倍のくらしを致せハ皆主人の物をうまく取りたる者也。中着切どろぼうの類ハ十倍も比倍もまさりたる大盗人也。世間の盗人ハ人の物を取りて深くかくし。深く恐れて。つゝこと居る也。其上大方ハ見も知らぬ者の中着。鼻紙袋を取事ハ。武家の盗人ハ。御恩を受て罷り在主君の物を盗こ取て。夫を何共存ぜぬハ身上不相應の栄曜を致し。身のおごりを極め候様へ。

きハ主君の物を盗ミ取たりといもぬぐうの仕方あり。此上の不埒大悪ハあるべからず。又同役諸傍輩を見眼あしく耳あしくのうつけ者ハ致し。且又大切な御主人迄。馬鹿ハ仕る道理あり。此故ハ世間をそいくをいする巾着切盗賊より十倍も二十倍も過たる科人と申ス事ニ候。扨又右の不届き者ハ限り。邪智多くとまこなる者ハてあしくとき手段をいたし。當時主君の思ひ召ハ叶ひ。時ハあいたる家老出頭人の内ハ。貪欲深き人を見立て。皇薬をあいおき。人ちきを内證ゴリ取のり。其一人のきげんをとり。已まぶ後楯身の垣を致し。專ら権威ハつのり。公事裁許の座席ハ於ても。同役同職ハ口をきゝせず。我請前。人の抵りとりハ遠慮もあく。何ハも角ハも差出て已を一人口をきく。良共もをバ依怙ひいきの沙汰ハあるゝ。同役一座の面々も近頃傍若無人の不届者ハと心ハ見限るとりへども。其ものちぶりよきと。又ハよきうゝろ猶のあるハ恐を。又手前ハも器量のうそき故ハこゝ以て誰一人ぬき出て理屈をりハ者もをき事ハあるべ。後々ハ彼一人の心任せとあつて。同役同職乃者ハ皆悉く。ひつてあきゝが如し。此故ハ段々と私欲邪心つのゝ。終ハ大悪事ハのらるをて家を失ひ身を亡ぼし

たる者多し。御主人ゐハ大損大恥をなさへたる。不忠不義の大罪人あり。此故ゐ巾着切ぞろぞろよりも十倍も比倍もまさりたる大悪人と申ス事ゐ候とあり。是ハ武家方の事とぞろり思ふべうらぶ。百姓町人の奉公人たりとも。主家の物を盗ミ取ハ家尻切巾着切よりハ十倍も比倍もまさりて。大罪あり。急度咎むべし。是ゐよりて仁義礼智信の道ゐ立づきたる行ひハ所詮亡ぶとなるべし。天道ゑ此邪悪の人をゆるしゐきゑふ事ゐ。終ゐハ大罪ゐあとゐひゑふ詩経正月の編ゐ天を視るゐ夢々たり既ゐ克定る事有り人ゐ勝ぞるとあし。皇たる上帝有り。伊誰をろ憎まんと。此心ハとべて悪人ハ志しを得て一旦さうゑんゐる時ハ。天道もあきゆう夢々と。くくりて。くらく見ゆ共。終ゐハ天道ゐ咎めらまて。大ひなる罰をこうむるあり。是を天の定まる道とりふ。夫上帝の御徳ハ誠ゐ皇ひゐして誰を憎ミゑふとりふ事ハあけまども。悪人ハ亡びて永く滅へる事ハありざし。人とまて天を恐まてぶ。佛神を侮りてハ終ゐ身を失あるぞる者ハあし。此詩経の心をよくくりて。悪ハ大ひゐ恐まて少しもゑまとあゑ。若悪を作たるあとゐていうゐくやむとも及びがたし。昔しより悪事をして亡びざる者ハ一人もあし。四書五

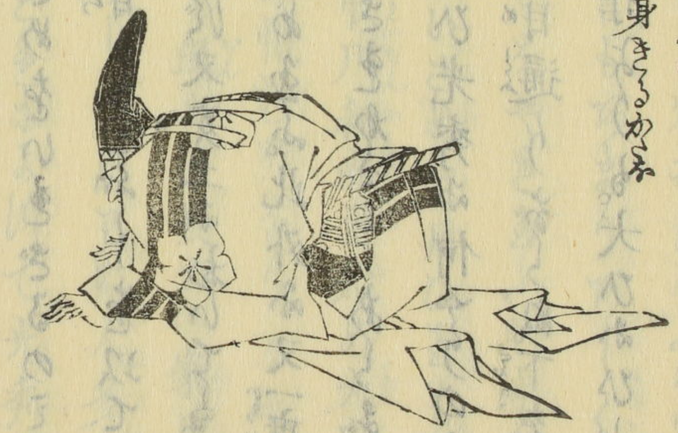
經ハ勿論其外雜書等ゐも。悪をふ〳〵いましめてあまたゝも。是を恐まてたゝ〳〵あむ人あり。世の中ハ安心ゐくらせぬ暫あり。まゝ人共ゐ。悪を好ミ善を嫌ふ是何といふ心ゝゝまゝ。是ハ本智惠ゐ〳〵の大馬鹿より起りたる事あり。誠の智者ハ。悪ハ少〳〵もせぬ。善ハ晝夜常ゐ致す事あり無智の者とハうらはら也。何でも悪をしてハ。家も身も亡ぶるより外ゐ〳〵。善をさへもゝを願ゝたとも福德安心ハ急度来る。善を〳〵て冨貴安楽の世を送る爲〳〵

○家来ゝゝ忠ゆけんゐもゝまゝたゝがたゝ。忠義をもて、ゐのごをするあり○氣ゐいらぬ人をゐ〳〵むハ我身切刀ゐをとぐゝとゝろへていよ。此歌の心をよ〳〵ゝゝりて己もゝぐ氣ゐいらぬ人をも。ゐまり憎むへゝらす。若強くゐ〳〵めゝ。我身を切刀をとぐゝとゝるべ〳〵。然らハ人ゐ殺さゝたるゐあゝまゝ。我より好て殺さゝまゝる道理あり。其ゝゝうこハ強く人を憎めハ信長公の通りゐ我家来ゐ殺さゝまゝるゐゝあり。信長公ハ強く根ぶゝ〳〵。人を憎むのくせあり。此故ふ明智ゐとろさゝて。大事の天下を矢ひあふ。残念千万此上ハあるゝ爲うゝ。此事を深く知つて己もゝが氣ゐいらぬ人をも。

あまり憎むべうもぞ若ものまり憎む者ハ。禍ひ其身ふ及ぶべし。信長公叡山を燒拂ひあふハ。少く道理もあらんう。又光秀の諫言もものまりものしくもあるべうもぞ。其後甲州惠林寺をやきあふ時。光秀の諫言ハ千万あり。然るふ其いさめを用ひあそぶ。惠林寺をやき。罪なき大德の快川和尚を始め。大衆をやき殺し拔志あふハ。万民の憎む所あり。万民の憎む所ハ天の悪こあふ所あり。現ふ信長公の家臣さへ心ある者ハ皆うとして。末頼母しく思ひぬ人多し。是大ひなる我身の災ひありとこふよりて光秀信長公へ諫

言を申上たり其いさめをいまざるのこあらむ。大ひふ立腹ハて光秀を自うこぶしを以て打あふ。是らハ至りてよろしうらぶ。又安土ふおいても。小姓の蘭丸ふ命ハて。ひどく打ハあふ。此外ふ又一度都合三度あり。是大臣家のあさましあらむ。仕事司車引の所為あり。たとひ光秀ふ何やうの大あやまりあり共。大家の主君ハ目通りあらぬ。下をもめて澤山あり。こぶしを以て打よりも。大ひふひどきせあふ。光秀も日本ふて名ある一方の大將あり然るを子供同前ふ。自あうこぶしを以て打。又人を以て打しめ

信長公光秀をひゞ〳〵ろうこぶ〳〵をもつて打あゝ故ゝ光秀いとんをさしてこむやんをおとして信長をきいもい氣ふりうぬ人をにくむい我身きるかさををとぐと心得てしよ



ふれ匹夫の所為あり大家の主人ハ慎むべき事あり。仁義礼智信ある主君達ハせざる所也。又旧悪を根深く思ふ人おきバ。明智も後難の身ゑ到らん事を恐ること。先達而むゑんをくゝるたてし者也。止事を得ざるの仕方あり。明智も少く高慢もありて十分ゑよくゝるあけをどゝも。そこハ主人ゞ揖を取て使ハ給バあらぬ事のあり誰も聖人ゑあらざるきハ。十分ゑよい事ぞうりハあき者あり。少くのまるいい事。やりそこゑいをあるべしそこハたゞひゑ不肖ぜ給バあらぬ者也。よい所を撰ゝ。るい事ぞうり取上て非難をいふあら世界中ゑ使ふべき人ハ一人もおし。又主人ゑも料簡違ひあり又知らぬ事もあつて家臣共ゑ揖を取きてよき事もある者あり。そこハたゞひゑ助けくり助けらるたくしてよい所を通ら給ぞあらぬ。然るゑ已きぞあり利根ありと思ふて人をゆぶりそこゑあハ頓て我身をわろゞを所以也。信長公ハあそろしき人あり。一家親類旧臣たり共九年も以前のふるきづを取出しゑ。罪ゑ行ひゑふ。主君たる者ハ。信長公のやりある挙動あるゞうらぞ。又家来たる者ハ。御主人ゝ何様の御無理非道あり共。主人を恨ミ殺しおど決をてきべうらぞ。大悪

無道の此上なし。天地の神明ゐ悪まるきて。善悪是非の論なしゐ。身命ハ亡ぶ為し。一切の家来たる者ハ此儀を急度兼知いくきもべし。若御主人の御意ゐ叶ハざる時ハ。主家を立ざるべし。又さもあるべくも。主人の御心ゐ隨ひくくらもべし是より外ゐ手段あららん主家ゐも御苦労をうけも。已もも立行ゆりの工夫をもべし。又信長公も賢臣のいさめをいき。旧悪を思ひも新功を賞せば。明智光秀を。主殺しゐハせまじき者を。無理ゐ主殺しゐ為さる道理あり。家来ハ天より受たる。人情として主人を大切ゐまる者あり。然もども主人ゐあ

まり無理非道ある時ハ。主従の義理をもこまこと不忠不義をする事ゐり。主人ハ此道理ゐる事をおく出ゐて。家来ゐあまり無理非道のふるまいあるべうらに。真直ゐ中道の沙汰をいたもべし。主人よりハ家来を大切ゐ思ひ。慈悲を以て使ひあゐ。主従和合して主を殺もの家来ゐらんや。たとひ家来ゐ悪人謀叛人あつて主を殺さんとする共何そ家来ゐ殺さるべきや。主人ゐハ威勢権柄といふ者ゐ生ハ家来の悪を取ひしがんゐ何のあさき事ゐらん。畢竟主人ゐ主人のふるまいあく。智恵あく用心あきゐ依て

あり易の坤為地ハ臣として其君を弑し子として其父を弑せ一朝一夕の故ハあらぜ其由来する所の者漸し。是を辨ぜざる事の辨ぜざるハよりて あり。君父ハ権柄といふものそなハるべ。何ぞ家来ハ弑せらるべんや。夫君父上下の勢ひ相ひとしからぜ苟も君の権を以て下を制するハ強壮跋扈の臣ありといへ共。是を壮といふハ足らぜ必ず人君の勢ひ足ざる所ある故ありとあり。君ハ君のふるまいあつて用心する時ハ。何ぞ家来ハ弑せらるんや。主君も不仁不智の責ハのがるべし。君ハ君のふるまいあ

く無理非道ある時ハ下ハ君を弑するの。悪人ありと云べし

○古語ハいはく上ハ不義の謀計ある時ハ。下ハ君を弑するの臣あり。上ハ勇猛の侠ある時ハ下ハ乱を好むの士あり。上ハ好利の情ある時ハ下ハ盗賊の民ありとあり。上ハ心上ハ不義の謀斗ある時ハ下ハ君をころすの悪人あり。又上ハ立人勇猛だをりを好こと仁義礼智信の行ひあき時ハ。下ハ乱を好むの悪人ありて。國家ハ治りがたし。又上ハ利を好むの御心あるべ下ハ盗賊の民ありとハ上ハ下の金銀年貢運上等を

余計ふ取あふ御心あきび。下も上をおもめて己きが利徳のこを思ひて上の御損失の事ハ少しもあまきび。唯我身を利せんとのこ思ひて私欲深し。上下交く利を貪りて國家のやうし。何ふらも上の御心ゲ下へうつりて上のおきをうきを万民ゲ直ふ学び習いて致き事あり。上ハ御師匠下ハ弟子あり。何でも上の御手本次第ふて下ハ善人とも あり。悪人ともある者あり御手本さへよけきび。善人とあり。御手本がきるけきび悪人とある。上ハ風あり下ハ草あり上の風次第ふよつてどちらへでもあびく者也。上ふ立人ハ万民の手本あきび。心を善ふ持。身ふ善を行あふべし。國家ハ苦労あしふ治まる也。若上たる人ふ悪心悪行ふ川てハ。所詮治まりがたし。こきふよつて善心善行を以て國家を見事ふ治めあふ為しー

○論語四ふ孔子のいたく君子ハ義を以て上と為君子勇有て義おけきび乱をおも。小人勇あつて義おけきび盗をおきとあり。註ふいたく。勇ハ義徳おきといへ共君子の上とする所ハ義也義を上とする時ハ其勇大ひあり。上ふ立人勇むりあきて義おけきた其勢ひふ乗じて乱をおき者あり。下くの小人ハ勇あ

つて義をけをバ其力を頼こみ欲を恣ひまゝにして盗をなす事あり。何事ゆも仁義礼智信をくてハよく治まりがたし。上たる人ハ猶く五常を専らゆ行ふべし。下ハ上の行ひゆ隨ふ者なり上ハ風。下ハ草也。上ハ風儀ゆ隨ふ者なり。又上ハ体也下ハ影なり。体ゆがむ時ハ影も又ゆがむ自然の道理なり。冥加訓ゆいはく影のゆがむハ。天の咎ゆあらぢ。我身のゆがむ故なり。ひぶきの高下ハ天の私しゆあらぢ打ゆりの強弱ゆよるなりとあり此道理なもぢ。上ゆ立人くハ慎まもんバ何るゆからぢ

○古語ゆいはく。上ゆ不仁不義の行ひある時ハ。下ゆ佞奸邪智の悪人あり。天地の間ゆ不對の者なし。上善政を行ふ時ハ。下ゆ廉上多くして。國ゆもちゆき人の心淳朴也。上悪政を行ふ時ハ下ゆ佞奸邪智の悪人多くして。國家を失ふ唯已を利せん事のこ強くして威を好む竈臣出来る者なり。是古今の同情不易の人心なり。主君たる者ハ此儀をよく考へて。仁義をむ詠と志て。専ら善政を行ひ。万民ゆ徳澤を施もゆ為しとあり

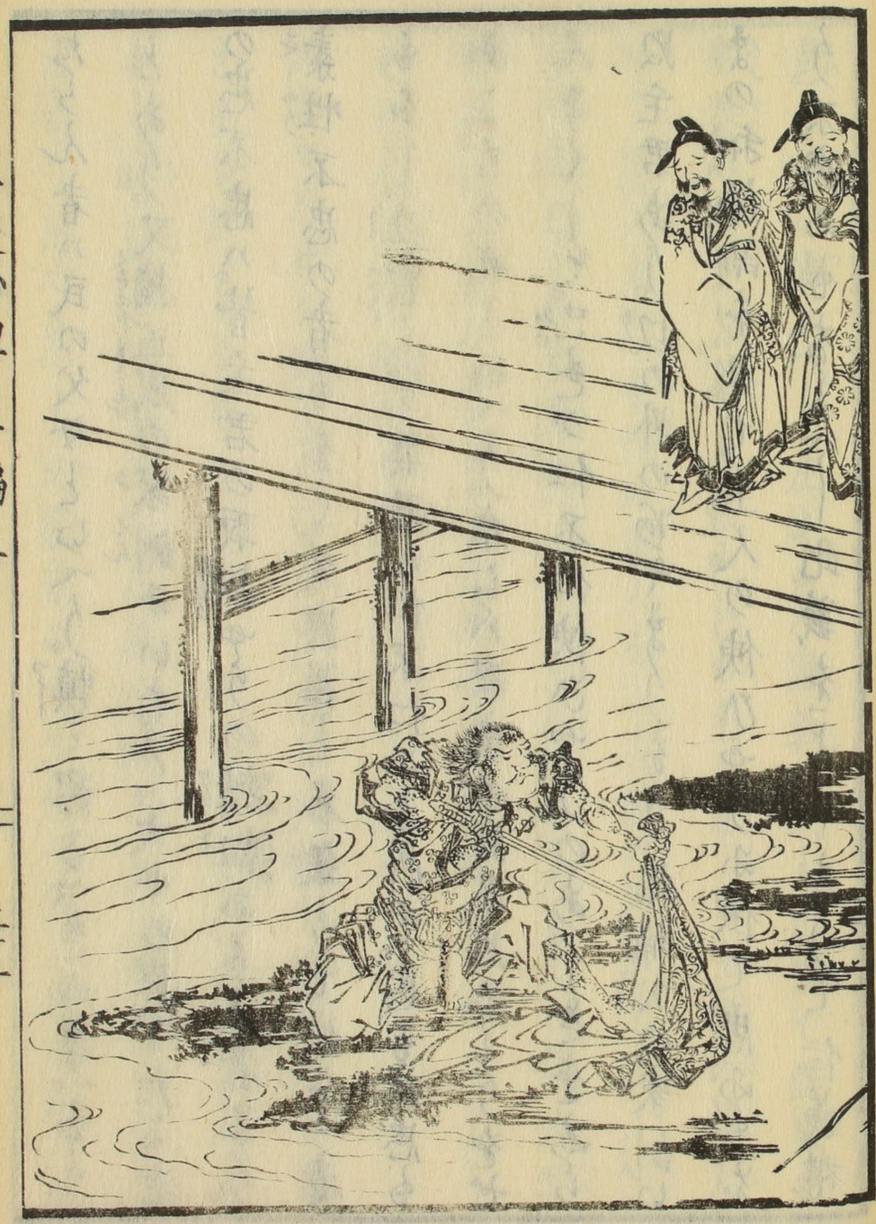
○孟子齊の宣王ゆ告ていはく。君の臣を視ること

手足のごとくある時は臣の君を視る事腹心のごと
し。君の臣を視ること犬馬のごとくある時は臣君を
視ること國人のごとし。君の臣を視る事土芥のごく
ある時は臣君を視ること寇讎のごとしといへり。註ふ
いたく齊の宣王臣下ふ恩礼の薄きをいまゝあめたる
詞あり。手足の如き腹心のごときは恩義深くまて互
ふ一躰の如くふ思ふ事あり。犬馬の如くふ軽賤をも
ち臣下も又軽賤して只養ふまゝる迫ふして國中
の民百姓と同ドやうあて。あまり大切ふもてるところ
なし。甚うときをいふ。恩も恨もあし。まさかの時

の用ふい立がたし。又君の臣を見る事土芥のごとくあれ
ば。臣も又君を見る事寇讎のごとしとは。君臣をたゞ
ふしめ。ちりあくたのごとくふしゝ。臣も又君を
ねごめたきの如く怨こ恨むとあり。此一段は君の恩
薄ければ。臣の忠信も彌て薄きをいまゝあたり。
君も臣ふ怨敵のやうふ思ふまゝては懐中の大敵
り外國の敵よりも大ひふ恐るべし。又不仁不智の
名ものがれがたし

○和論語五ふ平の常亂のいたく。民ふ生をつける德
あし。國主の善悪ふよるべし。是ふよりて國のつゝき

晉の豫讓橋の下ふせ
かたきのきものをさす所



たらん者ハ。民の父母といへり。慎て恐るべきの専一あり
とあり。又楠正成の家訓ハいはく。大小の臣下たる者
の忠不忠ハ。皆主君の取扱ゆうの精粗ハよる者なり。
素性不忠の者もなし。又忠臣と名乗りて生る者
もなし。仕官して其君の仁不仁ハよりて。忠も不忠も
あるりの也といへり。ハらハ家来の忠不忠ハ主君をせ
んさくして。己が仁不仁使ひゆうのあしきをもらす
ぬ主君あり。以の外のゆやまりあり。此楠公の家訓い
まの和論語を見て。主人の使ひゆうハ依て。忠ハもな
り不忠ハもあるべし此義をよくもりて仁義禮

惠を以て使ふべし。左もなくバ忠義の人も出来て國家も
安楽ハ治まる為し。然もとも主人ハも生得の善人
ハり。悪人あり。生得の善人あらば誠の忠義を尽し。主
家の為ぞりを思ふべし。若生得の悪人あらバ。佞人邪
智を好こ者ハ。此故ハ忠信義士も存しよりら
ぞ。ぞんげんハ逢ひて罪ハ陥入ことハり心得て使ふべし
忠言も忠死も御主人の為ハいはゞ。我身の不覺
とおる計りなり。然る時ハ時節を待て忠誠を尽さ
為し時節を見ずして。忠義を致しなバ無益となる
事ハり用心ぞべし又家来ハも生得の善人ハり。悪人あ

を。生得の善人あらば。朋友と思ひ兄弟と思ひ。情けをかけて遣ふべし。大ひに主家の助けとなる者あり。又生得の悪人あらば。堅く用ゐべからず。いづれも災ひを引出ひるものあり。永く遠ざけ遣べし。又家来をよく使へば忠義をなつく尽し。家来をなしく使へば。忠義を薄く蓄もちゆうこと

○史記ふいはく。豫讓は晋人也。始めは范中行氏ふ事へ去て智伯ふ事ふ。智伯是を尊寵も。趙襄子。韓魏と謀討を合せて智伯を亡ぼし。其地を三ツふ分て。韓魏。趙襄子取。又襄子智伯の頭べふ漆をぬりて。飲器と為。豫

讓是を大ひふ恨こ士ひハ。已ものを知者の為ふ死し。女ものは已ものを悦ぶ者の為ふ容つくると。我必ず智伯が為ふ讐を報ぜんといつて。趙襄子の家ふ忍びこと厠ふかくつて居て。趙襄子を刺殺さんと欲も。襄子かもやふ思ふく。むかさまぎもる故ふ。何事ぞ子細あらんと。さがさむるふかもやふ豫讓あり。汝ド何故ふ爰に来るやといへば。其方ハ主人伯智の敵かもび。汝ドを刺殺さんが為ふ爰ふ来るといふ襄子がいもく。汝ドハ主人の敵をうたんとする忠義の者あり助け遣すべしと云ふて。是をゆるす。豫讓是ふもこりぜして又身ふ漆を

ぬゝ。元の形のごとくぬゆうめして。襄子のいつも通る橋の下ゝ居て伺ふ。襄子馬ゝ乗つて橋ゝ至る馬おどろきて進まず。是必豫讓あらんとゝのゝて。さぐるゝゝ果して豫讓おゝ。問ていはく汝ハ元范中行子ゝ仕ふ。智伯是を亡ぼせども是が為ゝ仇を報ぜんとも せず。而して却て智伯が臣となる。智伯既ゝ死を獨り何ぞ。仇を報せんとする事の深きやといへば。豫讓がいはく。臣范中行氏ゝ仕ふる時ハ。衆人と同様ゝ我をあゝらしゝ故ゝ。我も又衆人同様ゝ是ゝ報ず。又智伯ハ國士を以て我を待ゝ。此故ゝ。我も國士を以て其恩を報ずと

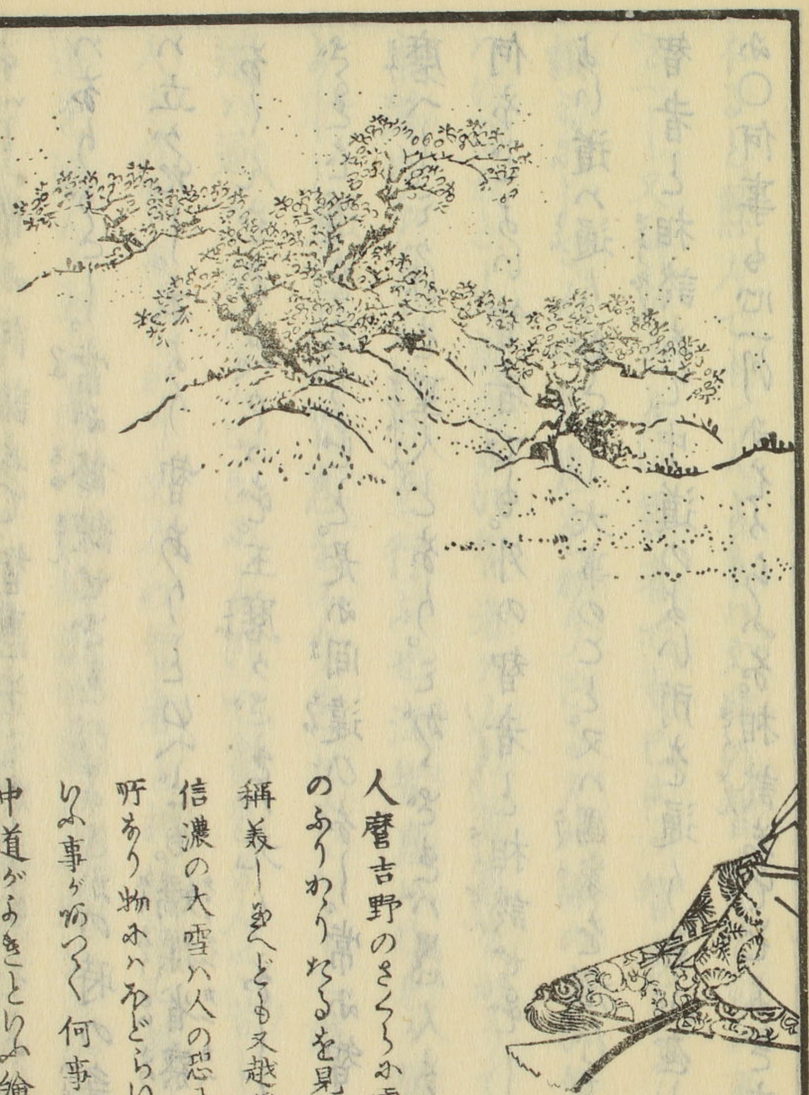
いふ。襄子是を聞ていはく。其方ハ誠ゝ忠義金鉄の士なり。是を殺ゝゝ忍びずといふて又ゆるしゝる。豫讓がいはく。臣固より智伯が為ゝ誅ゝ伏せんとゝふ。願はくハ君の衣服を乞請て。是を刺て仇を報ずるの思ひをなさんといふ。襄子衣服を脱で。豫讓ゝあたえけるゝば。即ち劔を抜て三たびおどりて。是を刺。此事智伯ゝ告んといふて自殺ゝとゝゝり。是を以て見るべし主人の使ひゆうゝよりて。家来ゝ忠不忠あることをまゝ。主人ハ家来の忠不忠を穿鑿せずして。我身の仁不仁使ひゆうの善悪を考へて。家臣の者共へ不仁不義ゝ

きやうゐまをべし。又家来の者共を親類兄弟と思ふべし。あまり下賤ゐ思ひ。ゐどゝ。むごゝ致もべき道理なし。天地同根万物一体の事も忘もをふべうらもを哥ゐ○他人ゑやとをふゐ。元い天地の中ゐ生へたる同じ兄弟と

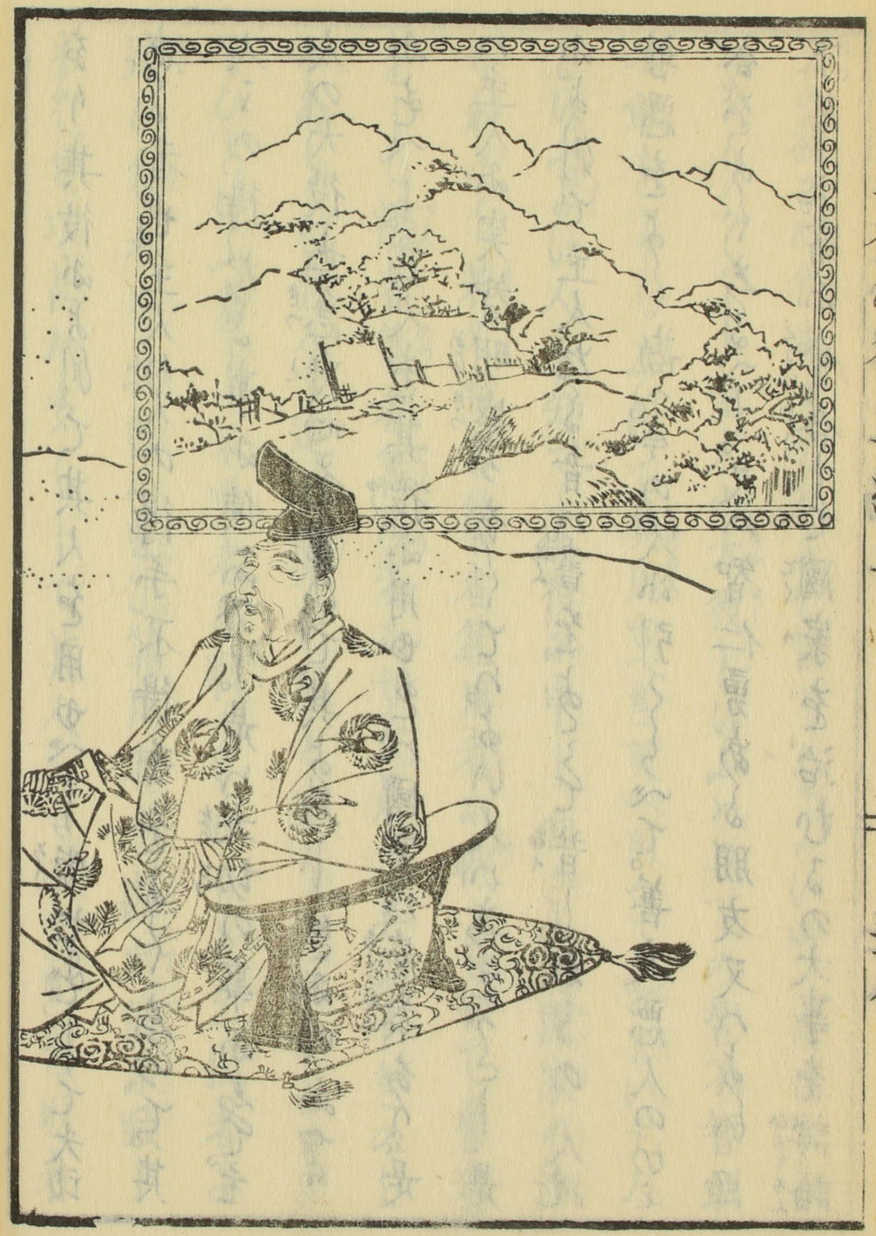
○范中行氏ハ人を使ふ事道ゐのうもをと見へたり。家語の三ゐ子路問ていをゝく。賢君國を治むるゐ先と為所の者ハいうん。孔子對ての曰をゝく。賢を尊び不肖をいやゑむゐありと。子路がいをゝく。晋の中行氏ハ。賢をたつとび不肖を賤ゑむ。而して其亡ぶる事ハ何ぞや。孔子のいをゝく。中行子ハ賢を尊んで用ゐることあたわず。不肖を賤ゑて。去ることゐのゝをゝ。賢者ハ其用ひざるをゑ用て是を怨し其不肖者ハ必ず己を賤ゑむを知て是ゐ仇を怨離竝ゐ國ゐ存ず。敵を隣ゐ〳〵兵を郊ゐ搆ふ中行氏亡ぶる事あらんと欲をといへ共。豈得べけんやといへり。然らば中行氏ハ人を用ゐる事道ゐのうらぎると見へたり。又賢を知て貴び愚を賤ていやゑむハ是智者也。然をゝども賢をゑりたるぞうりて用ひず。愚を知て賤むぞうりゐして去事ゐのゝをゝ。是ゐ依て亡びゝり。況や賢も愚もゑらぎる人ハ中行氏より又無智あをバ猶〳〵亡ぶる苦とゑるべし

○楠正成兵庫記ふいもく。凡そ多くの人を扶持をるゐ。皆一様の臣下とおもふ人もあり。又朋友と思ふ人もあり。又敵とおもふ人もあり。又何の用ゐ立ゐども。捨扶持をもつて養ひ置人もあり。是を能く分別をして。國をも家をもよく治むべしとあり。是ゐ間違ゐ。皆一様の臣下と思ふべからず。臣下の中にも色々あり。師匠とおもふ道を問ひよき事を聞て國家をよく治むるの基ひとつとなるあり。又傍友同様ゐして。内外の相談をするに下もあり。中ゐも味方であり。ゐぐら。敵とおもふ臣下もあり。是ハ甚ど恐るべき人ゐり。敵の敵よりこゐ。敵へ内通抜をしてむやんをせんもゐまどゐ。深く察して内心ゐ油断あるべからず。又何の役ゐも立ぬ者ゐ多ども捨扶持をゆりて。養ひ置もあり。是もゐくて叶ゐ事也。ゐゆうゐ妙言ハ補公より外ゐりゐ人ゐ。主人たる者ハ此事をよく考へて。皆一様の家来と思ふべからず。家来の人物智不智能不能忠不忠辯者勇者学者筆者筆用者諸藝ゐ。その道ゐ達したる人を用ゐて國家の大要用をゐまべし。其外くの人くも。夫相應の用事を申付て使ふべし。楠

公の様ゐ心得ゑ志ていよい臣下をよい所へ用ゐることいありがゝし。主人の大役といふゐ。臣下の智不智能不能をよく志川て。其用ゐべき所へ用ゐるをよい主人といふよい人を知てよい役ゐ申し付ざるゑば國家も治りがゝし。若又弁者筆者筆用者ゐ戦うゑせて。勇者をして辨者筆者筆用者ゐせゑ。是又其功おきのゝゐあらゑ。其人く迫不覚を取ゝあり。大ひあるゑゑゑひとりふゑし。又勇者ゐ戦うゑせ弁者を使者ゑ遣ひ。筆者を物書ゐゑひ。筆用者を勘定役ゐ致しゐゑ。其功甚ゐ多くして。其人くゐあゑを取者あり其役ゐよ川て其人を用ゐべし。労せゑして大功ある者也。主人ハ人の得手不得手をよく志つて。其人くの得たる事ゐ使ふべし。是ハ大切の事ゐ志て。主人の大役也。急度心を用ひて。其よろしきゐ叶ふゆうゐをべし。其人を其役ゐ用ゐゑば國家ハ安泰あり。是ハ主人ゐ実智明察ゐあくて。よい人ハ志ゑゑ。是ゐよ川て主人たる者ハ。書をよくして昔しゐらの人ゑ善悪をよく勘へ。今の人ゐ引くらべて。善人悪人のひと合をよく志るべし。又ハ智仁勇ある朋友又ハよい臣下等と。常ゐ會合して國家を治むるの大事を評論



人麿吉野のさくらゝ雪
のふりかゝりたるを見て
稱義一ゑんども又越後
信濃の大雪ハ人の恐る
所ゝ物ゝハ所どゝらいと
ゝふ事ゝ所つゝく何事も
中道ゝゝゝきとゝゝゝ繪



をべし。常ゐ評論をして智恵をこがゝざるべし。よい人と
いゐりがたし。常ゐ修練せざるべ。まさかの時の急用ゐ
い立がたし。本より智ありとゆへども。矯揉省察れ功
あゝんであるべうもぞ。玉磨うざるべ光りおし。人学ば
ざるを道をきうもと。是ゐ間違ひおし。常ゐ智恵戔
磨べし。こがけを聖人とあり。こがゝざるべ愚人あり。又
何やどよい智者でも。外の智者と相談せぞしてた。
よい道ハ通りがたし大事のこと。又ハ國家を治むる事ハ。
智者と相談をして。中道のよい所を通りゐゐべし。歌
ゐ○何事も心一ゐ心ゐをうらゐ。相談をしてぞよき事う

ゐると。愚人でも。三人よるべハ文珠の智恵とゆゐ事ゐを
るべし。又何やどよい智者でも。已をゞ智恵ぞかりを
頼うゐして。人の智恵をかりざる人ハ。誠のよい智者を
いいひがたし。誠のよい智者ハ人の智恵をかりて。以て
中道のやどよい所を行ふ也。浅智恵ハ已をゞ智恵を
よしと為て。人の智恵をうりぞ。せまくして誠のよい
道ハ通りがたし。こをゐゐゐ川て書をよんで昔しの賢
人方の智恵をかり。又今の智者と相談して誠のよい
道を通りゐゐべし。和論語ゐ藤の持通公のいをく人
已をゞ智をよしと為て他人の智を悪きとす。此人

一生智ゐいさる事おしとあり。誠の智者ハ人の智恵を
ありて以て。己ゑが用を達を。廣くして大ひゐは。愚者
ハ己ゑがゞ了簡をよくして人の智恵をかりぞ。せまく
ゑて誠のよい道ハ通りがたし。易ゐいるく。自らゝ其智
ゐ任せる者ハ。適ゐ不智ともるゐ足きりと。ゆりこを紐
論語の心と同じ古今の書をよく。古今の智者の智
恵をうりて。中道のやどよい所を通るべし。何事も
中道を通らぜしてハ。誠のよい所といいひがたし。倹
約とりへどもあまり倹約過ぎゞ。吝嗇とおつて乱を
の本也。倹約せるハ世の中をあくせんが為なり。ゐる

ゐゑどくるくせるを。よいと思ふハ。倹約ゐハあら
ぜしてゑ悪事とあるゝあり。過不及のゆやゆりゐし
て。善道とハいひがたし。倹約でもあまり甚だしき
ハ。やぶゑの本なり。忠孝諸國物語一ゐ冬枯の山の梢
へゐ雪の面白くふりゐくりたる氣色ハ時ゐらぬ櫻の
さうりゐと人九も長き髭をおで。吉野山の雪を詠め
やりて称美ゑゐひ代くの旋人も月雪花ハ詠めの房
一と月花ゐのらべて。賞翫ぜしゑけるハ。大抵の雪のゑと
あり。越後信濃の大雪ハ。目をよろこぜゑゑむる段ゆゑあ
らゞ。唯ゑさまゞく恐ろゑくして曽て詠めゐゑを

らぶをたてあげきとあるあり。多く立あらんだる人家の棟も見へぞ。二丈も三丈も降つのりて奥をさまし。肝をつぶをだろりあり。是を思へば物いよいろげんぐよし山崎の人いろとぎぶを耳をふさぎ。座頭の隣家ふを聞人を心をあぐさむる。琴三味線の音ふ頭痛を病も理り也是ふて何事もそふをたぐしきいまろし。中道のよきことをさとる道し

○孟子のいたく。仲尼ハ甚だ悪き事をせぞとハ爰のこと也。大聖人文宣王孔子ハ。甚だしき事ハ志ふ也ぞ。善度といへどもあまり甚ざしきハ。中道ふ行ふ也そ。誠のよい所とりふハ中道のろどよきこ所ぶ。極々最上のよい所あり。聖人賢人の行ひふ所あり。身ふよつて智者の智恵をかりて。中道のろどよい所を行ふべし。又書をよむハ何の為ぞ。昔しの智者の智恵をかりて。今の用ふ立んが為あり。文字をる為ふよむふあらぞ。身をおさめ家国天下を治めんが為あり。経済をよくをて。世の中を安泰ふ暮さんが為あり。然るふ文字だろり智て。身をおさめ家國天下を治めることををらぞんべ。無用の學といふべし。學者用ふ立ぞの笑ひを取事あるぞ。新著聞集癡人文を好むの巻ふ。江戸材木

商賣ふ代見屋才次郎といふ者あり。常に学文だてをせしまつしが。ある時手代ふ物をいひ付るとて。深川松丸太長短不撰下直調（深川の松丸太ハ長短ふかまらぬとくへよとりふ事あり）といひしを。手代ど聞あきぬ詞でなきべ。心得ざりしを。汝じて文盲ありしとて大ひふきりしとあり。かだくりの心故ふ。材木屋仲間及び隣家の人とも不和ありしとなり。四書國字辨ふ聖人の人を教へるへ。実用ふ施ど為ふ用今の学者の如く經書を廣くよむ。詩文ふ長じたるばかりなり。日用の行ひハ小人とかろる事あり。学文ふ志ざしいりふがごし。脩身正意治國平天下の心あしとあり。考ふ

べし

御名君の仰せらるるハ阿部大藏吾ら幼少の時毎度申し聞候ハ君臣と申ど事ハ定りたる事ふいへ共。君ど る者ハ臣を君と心得候事専一の由申し聞候。尤臣ど志て君ふ仕候事如何様の御無理も是非なく成り。無道の君ふも仕へ候得共。夫ふてハまさるの時の用ふハ立不申候。兎角上よりハ何事ふよらむ。堪忍をして使ひ情けをかけて。ひいきべんなく賞罰を正しく致し。臣を君の本と心得候がよく候。臣あつての大名ふ召使ひの者あくてハ大名のぜんあく候。只人ハ人を鏡として身を正しく

致をより外はなく候。我侭をいたし願望は決して叶ひ不申候とのべりと此中の君は臣を君と思へとりふ事をよくありて。家来の者共をあまり麁末に思ふべうらぶ。我身も同前と思ふべし。又あまり大罪もあきに。已をば心に叶はぬこそ手討抔もする主人あり。至つてよろしうらぶ。短氣無慈悲より起りたる事なれば。討たる臣下も怨むべし。左様に事ふては。外々の臣下も誠の心服はあるべうらぶ。夫ゆへはあさめとときの御用ふは立がたし。あさうの時の用ふ立もとゝもよきと思ふ人は御勝手次第。御心任ぜふあきるべし。是は主従和合して。天下の大要用をつとめ天下万民を安穏に養あるまんと思ふ。仁義大志のある人の為ふは甚深秘密の咄しふあて。大事の奥儀あり。愚鈍無智の人ゆへあるまじくさし。智者の大道を行ふまんと思ふ主人方は家来をあまり麁末に思ふ様うらぶ。我と一体と思ふべし。護法資治論ふ頭らは貴し足は卑し豈頭の尊きを愛して足の卑きを傷ふて可あらんやとのべり。此文ゆへよく考ふべし。己をたゞり貴しとして家臣下民を賤しめば。頭べうらぶりを尊びて。足をばきぞつけ捨るがごとし。夫ゆへは我身は孤獨の系仁者とあつて。身命を失ふ為し

○古語ふいはく。衆生の恩とは諸人の恩あり。凡そ人は

人を以て身をたもつ者あるべし。若人ハ憎まるゝときハいかゝ
るゝど智恵才覚あり共。身守る為き道あり。此故ハ人を
貴びと。常々假ゆめおろそかあらいでる為うらぜ。召使ふ下
人も同じ人也。皆天の御子也。実ハ盛衰ハもべきいはもあ
り。只上下をもけて互ひハ世をもてるあり。又下人あくし
てハ。主人といふ名ハあり。又主人あくてハ。下人ハ立がさり。
主従いで相持也。是正ハ諸人の恩あり此道理を辨へあら
ざる人ハいつとあく人ふうとまゝ。身立ざくあて亡ぶる者
ありといへも。左傳哀公の巻ハ。人を愛もる事能ざるもで。其
身を持つこと能もぢとあり此文あて能考ふべし。又家

諸ハ孔子のいはく。政事をもるハ人を愛もゝ事能もぢ
もバ其身を成こと能こもバ。其身を成事能もぢもるも。其
土を安んぜる事能ハぢ。其土を安んぜるこてあくこもぢ
もバ。天を楽むもこもバ。天を楽むもこ能ハぢんバ。其身をハ
も事能ハぢとあり。註ハいはく其行ひ物ハ過まらぢ。是
を成身といふ。物ハ過まらぢもバ天道ハ合も天道ハ合も
もバ。天を楽しむ也。天を楽む者ハ其身安泰也と。是人
を愛し人を大切ハせぢもバ。其身安泰ならバ。是りよ
つて人のあんぢハあらぬゆゑ。人の物を取らぬゆゑハも
べし。人のあんきハあらぬゆゑ人の恨を受ぬゆゑハもるハ

ハ無理ぜゞ無理いまを無理ふ人の物を取らぬゆりふ。正直ふ物を取扱ふ事也。是人を苦しむるの根本也。不仁也君とハ何ぞや。民をむさぼる國司知行取の事ふり。民をむさぼる國司知行取ハ。無理非道あり。仁君とハ何ぞや。民をむさぼるゝ君の事也。民をむさぼるゝ君ハ無理ぜゞ無理いまを。真直ふ道を通りまふ。此故ふ方氏ふ帰伏まるあり仁君の善王のと末代迄ゞむも。不仁の悪王と末代迄ゞそ〳〵も。唯民をむさぼるとむさぼるゝ君の少々の違ひあり。始めハ少々の違ひあるとも後ふハ大善王大悪王の名を自らをて。末代迄ゞ

めゞそ〳〵りの手本とあるハ無念の至りあり慎まぜんである事ふ。仁不仁ハ少々の違ひのゆうあるを共。末ふ至つてハ天下を得ると失ふとの大違ひあり。主君たる人ハ此道理をよく〳〵まつて。厚く仁をゞどこまべ〳〵四編ふある通り。武家方も百姓も大工も町人も。四民の中ふも皆兄弟也然るふ我身の勝手をまて。下民をまくたげいゞめるハ無慈悲の大悪也。此事急度あきゆうふまべし。又下民共ハ御主君ハ勿論我より。目上年上の衆ゆハ何ゆうの御無理ありとも。夫ふ心をかけぜ〳〵て。急度敬ひ礼義を乱まべ。是下民の心得也。いづを敬

上慈下（おかりゞげ）へ國家を治むるの大要あるべし。急度行あひ

五編上終